

■ドイツ：ヴァッテンファル、ドイツにおけるエネルギー事業を継続

2014年12月8日付の報道によると、スウェーデンの大手国有電力会社ヴァッテンファルのハル社長は、ドイツにおける褐炭事業を売却した後も、同国から撤退する意思はないことを明らかにした。ヴァッテンファルはドイツ第二の規模を誇るラウジッツ炭鉱等で褐炭の露天掘り採掘を行っていたが、本国の社民・緑の党連立政権が2014年10月に褐炭事業からの撤退を要請したことから、採掘施設および火力発電所の売却を決定していた。政府予算案が否決されたことを受け、2015年3月にスウェーデンで行われることになった総選挙の結果、政権が交代したとしても、売却の決定が翻ることはないという。売却後もドイツがヴァッテンファルにとって最も重要な市場であることに変わりはなく、今後も同国において電力事業、小売り、再生可能エネルギー事業を継続する。